

地域の会



▲第82回定例会（柏崎原子力広報センター）



◀第81回定例会
（柏崎原子力広報センター）

CONTENTS

第81回定例会 東京電力から状況説明を受け質疑応答	2
第82回定例会 平成22年度の地域の会の活動をテーマとした ディスカッション	3
発電所を巡る主な動き 地域の会に寄せられた声「みんなの広場」	4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）
臨時会（必要に応じ開催）
※会は、原則すべて公開。

第81回定例会

東京電力から状況説明を受け質疑応答

第81回定例会の概要

開催日	平成22年3月3日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	22名(欠席1名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所(保安院)、 地域担当官事務所(エネ庁)、東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●1、5号機の現状、燃料装荷の手順、構内の仕事の流れについて ●質疑応答 他



東京電力から1、5号機の現状、燃料装荷の手順、構内の仕事の流れについて説明を受け、各委員から質問及び意見・要望が出された。

〔質疑応答〕

Q 中越沖地震で6号機にロッキング振動が強く現れたとのことだが、6号機は地震の揺れに弱いということなのか。
新潟県 技術委員会では、設備、建物等の健全性及び将来的に起るかもしれない地震の耐震安全性について議論した結果、ロッキングを考慮しても安全だと確認している。

Q 柏崎刈羽原子力発電所では、津波について、どのように考えているのか。
東京電力 水位が上昇する押し波と水位が下降する引き波について検討している。押し波は3メートル程度と想定しているが、発電所の敷地は海面より5〜12メートル高く造成されており、影響はないと考えている。また、引き波は3メートル程度と想定しており、ポンプが

冷却用の海水を十分に吸えることを確認している。
Q 津波で5mの引き波が発生した場合、日本の原発の8割で冷却水が一時的に取水できなくなると国会で答弁されたが大丈夫か。
東京電力 柏崎刈羽では津波で水位が下がっても3.5m程度だ。水位低下が長時間続く場合、復水器に水を送付するポンプは止める検討をして手順書を作った。

Q 東電が知見拡充のため地震予知総合研究振興会に委託した「柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関する検討委員会」が非公開なのはなぜか。
東京電力 学術的な検討を依頼しているため、まだ研究段階のテーマや報告を含めアイデア的なものであっても議論してほしいという主旨から、非公開となったと聞いている。当社のホームページに「知見の拡充に向けた取り組みの検討状況」についてのページを設けて、概要をお知らせしている。

Q 発電所構内で作業に従事する協力企業はどのように選定するのか。その社員の健康管理はどこが行うのか。
東京電力 協力企業は技術力や過去の実績等から協力企業を選ぶ。作業員の健康管理は、元請の会社で行う。
Q 作業前にはミーティングを実施しているとのことだが、その頻度と時間を教えてほしい。
東京電力 基本的には午前と午後の作業開始前や作業手順が変更される場合に10分程度実施している。
Q 制御棒の材質は何か。制御棒交換の判断や手順を教えてください。
東京電力 制御棒の材質はウランとハフニウムの2種類。制御棒は使用に伴って中性子を吸収する能力が弱まるので、使用時間、使用状況等に基づいて交換時期を判断する。
Q 交換手順は、原子炉から使用済み燃料プールに水中で移動させ、保管する。
Q 毎年、特に冬頃、海岸への漂着物が多いが発電所に影響はないのか。
東京電力 取水口にゴミを取るスクリーンが設置されており、安全上問題はない。

Q 燃料配置の考え方を教えてください。
東京電力 原子炉内は、中央部が中性子量が大きく、発熱量も大きい。新しい燃料を外側に、一度使ったものは中央に入れるようにしている。
Q 火災防止のため、危険作業立会い確認や危険予知教育、安全担当者による監視など、完璧とも思える対策をしているはずなのに、揮発性物質に火花が引火して火事になったのはなぜか。
東京電力 以前は、検査や点検、塗装等、現場作業のいろいろな段階で火気危険物を使っていた。昨年3月から多少性能は劣っても、危険なものを現場から排除する取り組みを開始した。危険物持ち込みの管理を徹底し、火災のリスクを下げていく努力を続けていきたい。
Q 2号機炉心のシユラウド予防保全対策工事とは何か。
東京電力 応力腐食割れ防止対策のため、原子炉圧力容器内のシユラウドの溶接部付近に、強い水流を当て、ひびが入りにくくする工事である。
Q 3月12日に柏崎刈羽原子力発電所で実施される非常災害時及び緊急時総合演習とはどのようなものか。
東京電力 当社単独で年に一回行う防災訓練。

〔各委員からの意見・要望〕

●東京電力からの今回の報告に、不適合事象がなかったのは良いことだと思った。
●地域の会定例会で出される質問にかなり専門的なレベルで自分には理解できないものもある。県の技術委員会等、専門家が議論し、判断したことを信じればよいのではないのか。
●地域の会においては、質問の権利は委員それぞれにあり、何を質問しようと自由のはずである。委員が、全員の意見を装い、他人の意見を封じるような発言は慎むべきだ。個人の意見は自由だが、全体の意見のような発言は訂正すべきだ。
●以前は人災事故が柏崎刈羽原子力発電所の大きな特徴だったが、少しずつ改善され、最近はそのような悪い印象が薄れてきた。
●今後も地域の会と東京電力とは、平等・対等な立場で話し合い、いいことはいい、悪いことは悪いとこれからも伝えていきたい。

トピックス

発電所非常時及び緊急時総合演習を視察

日時 平成22年3月12日(金)
13時半〜16時
場所 柏崎刈羽原子力発電所
免震重要棟

視察内容
重要棟で実施された、非常災害時訓練状況(緊急時対策室)や、免震重要棟地下基礎部分などを視察。視察後、夜間や休日の職員の勤務体制や通報訓練のあり方などについて質疑応答が行われた。



第82回定例会

平成22年度の地域の会の活動をテーマとしたディスカッション

第82回定例会の概要

開催日	平成22年4月7日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所(保安院)、 地域担当官事務所(エネ庁)、東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●平成22年度地域の会の活動をテーマとしたディスカッション ●質疑応答 他



30分を目処に危機管理職員が登庁できる体制が整っている。

Q このほど、東京電力から、※プルサーマル計画が公表されたが、柏崎刈羽ではどうなっているか。

※プルサーマルとは、使用済燃料から取り出したプルトニウムを使って加工したMOX燃料を現在の原子力発電所(軽水炉)で利用することです。プルトニウムの「プル」と、サーマルリアクター(軽水炉)の「サーマル」とつて作られた言葉です。

九州電力玄海原子力発電所3号機で国内で初めて平成21年12月から営業運転が始まっています。

東京電力 柏崎刈羽原子力発電所ではまたそのような状況にはない。まずは、中越沖地震後の復旧を最優先に健全性と耐震強化を図っていく。

Q 鳩山総理は、エネルギー・原子力政策に積極的に取り組むとのことだが、連立政権の中ではどうか。

エネ庁 地球温暖化対策の推進、エネルギーの安定供給等の観点から現政権でも原子力の推進は安全の確保を大前提に地元の理解と信頼を得ながら進めることに変わりはなく、あらゆる機会を通じて国民との対話を行うこととしている。

Q 2号機原子炉内のジェットポンプ流量計測用配管が切損した。破断の原因はなにか。

東京電力 通常の運転や地震の影響ではなく、予防保全対策工事作業中に破断したと考えている。詳しく調べてから説明したい。

【各委員から出された22年度の活動テーマ】

○高経年化対策について
●発電所の設備の老朽化対策などを聞かせてほしい。耐用年数を経過したもののについては、どのように対応しているのか知りたい。

○原子力防災について
●地震という体験をした柏崎だからこそ、独自の防災計画を考えなければならぬ。柏崎にしかない、地域の会であるからこそ議論するという大事な役割がある。

○原子力・エネルギー政策について
●実績を踏まえた電力需給の今後の見通しについて議論する必要がある。

●国のエネルギー政策上の原子力発電のあるべき姿について追求したい。

●核燃料サイクル、プルサーマル、放射性廃棄物の最終処分等について聞きたい。

○会の役割、あり方について
●会としての役割の再確認をするべき。

●会の役割を踏まえ、よりわかりやすい議論。

●原子力発電所と地元がどう共生していくか考える。

○その他
●原子力安全規制機関のあり方については、今後とも注意深く見守っていきたい。

●環境に対する放射能汚染全般について考えたい。



【前回定例会(3月3日)における質問に対する回答】

Q 国の耐震指針が新しくなり、対象となる活断層が以前より古いものになった。これについて審査、検討をしていないのではないか。

保安院 新しい指針においても断層による変位、変形がなければ耐震設計上考慮すべき活断層ではない。また詳細な調査を行い安全審査や地震後の検討においても確認している。

Q 安田層を切る断層上に原子炉を設置することは違法ではないかという35年来の争点を新潟県は技術委員会、小委員会等で問題にしない理由はなにか。
新潟県 敷地内の断層について地盤、地質の小委員会が議論し、更に現地に赴き調査もし、その結果、保安院の説明に異論はなかった。



前回定例会以降の動きについて、保安院、エネ庁、新潟県及び東京電力から説明を受け質疑した。また、各委員が平成22年度の活動テーマについて、意見、要望を述べた。

【質疑応答】

Q 中国電力島根原子力発電所の点検漏れについて、保安院、東京電力はどう対応するのか。

保安院 現在、法令に基づいて中国電力にその内容の報告を求めている。その結果、必要があれば他の電力会社に水平展開する。

東京電力 現在、中国電力に確認をしているが、保守管理の業務プロセスが東京電力とは違うようだ。中国電力の報告をみて対応を検討する。

Q 5号機タービン建屋の厚さ60cmの鉄筋コンクリートの壁で、ひび割れの一本が貫通していた。壁の強度に問題はないのか。他のひびについて調査しないのか。

東京電力 ひびの幅は0.4ミリメートル

で貫通していても建屋の構造上には問題がないと考えている。次回、図解などで分かりやすく説明したい。

Q 東京電力から緊急時に発信を受ける国や県、市、村などの体制を教えてください。

新潟県 担当職員の緊急用携帯電話へ連絡が入る。また、直通のホットラインから連絡が入ることになっている。

柏崎市 県の場合と同様だ。担当職員に緊急用携帯電話で夜間でも連絡が入る。また、執務室にはファクスやホットラインがある。更に防災行政無線を市と東京電力に配備し、衛星携帯電話で万全の体制をとっている。

刈羽村 県、市と同様の対応で順次連絡が入る。

保安院 電話、ファックスで検査官事務所へ第一報が入る。また事務所職員全員にも緊急時用携帯電話を配備し、遂次連絡が入る事になっている。また同時に、東京の保安院にも第一報が入る。なお、東京では緊急時には夜間でも

発電所を巡る主な動き (2月4日～4月7日)

- 2月4日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 8日 保安院 内閣府原子力安全委員会に、平成21年度第3・4半期の保安検査結果及び保安規定認可実績について報告
- 10日 新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認
- 12日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 16日 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性)に関する小委員会(開催)
- 18日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 19日 保安院 柏崎市消防本部と共に柏崎刈羽原子力発電所の火災対策の実施状況に係る調査を実施
- 保安院 東京電力から、1号機の設備健全性に係る点検・評価報告書及びプラント全体の機能試験・評価計画書を受領
- 保安院 設備健全性評価サブWG開催
- 耐震・構造設計小委員会(構造WG)開催
- 1号機に関する新潟県中越沖地震後の設備健全性に係る点検・評価報告書の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 22日 新潟県 技術委員会(地震、地質、地盤に関する小委員会)開催
- 24日 柏崎刈羽原子力発電所における知見の拡充に向けた取り組みの検討状況について公表
- 25日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 26日 保安院 1号機の設備健全性及び耐震安全性の確認に関する立入検査及び構造WGの専門家による現地調査を実施
- 3月4日 保安院 耐震・構造設計小委員会(合同WG)開催
- 1号機における「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」の改訂に伴う耐震安全性評価結果中間報告書の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 8日 保安院 耐震・構造設計小委員会(構造WG)開催
- 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 4月1日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 10日 新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認
- 11日 荒浜側共用設備 重油タンク(屋外)付近からの重油漏れについて公表
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 12日 2号機ジェットポンプ流量計測用配管の切損について公表
- 15日 保安院 耐震・構造設計小委員会(構造WG)開催
- 六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムの利用計画について公表
- 17・19日 保安院 柏崎市で国際原子力機関の国際ワークショップ開催
- 18日 保安院 内閣府原子力安全委員会に、平成21年度第3・4半期の定期検査結果について報告
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 19日 保安院 東京電力から、6号機の運転上の制限逸脱について報告を受領
- 新潟県 発電所周辺環境監視評価会議開催
- 6号機 安全系論理回路に関する警報発生時の不適合について公表
- 1号機に関する新潟県中越沖地震後の設備健全性に係る点検・評価報告書(改訂1)の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 24日 保安院 設備健全性評価サブWG開催
- 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 1号機における「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」の改訂に伴う耐震安全性評価結果報告書の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 25日 保安院 2・3号機の立入検査及び構造WGによる現地調査を実施
- 新潟県 技術委員会(地震、地質、地盤に関する小委員会)開催
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表
- 31日 保安院 耐震・構造設計小委員会(構造WG)開催
- 平成22年度使用済燃料等の輸送計画について公表
- 「平成22年度経営計画」について公表
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
および不適合について公表

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分
■色は東京電力の動き ■色は行政の動き

地域の会に寄せられた声 みんなの広場



原発事故はぜったいいや!
柏崎市 藤田 英子さん

原子力発電所の事故って大変なんだね。「もんじゅ」が再び動くんだったら、なんと14年5ヶ月ぶり!どうして14年5ヶ月も止まっていたの?わかんない。新聞ではナトリウムはすぐ燃えやすいんだって、それが漏れて火災が起きてしまい、それを直すのに14年以上もかかったのかしら?ウラン資源の有効利用するための「もんじゅ」と言われているけどそうなるにはまだ何年もかかるようだし、今まで9,200億円ものお金をかけ、これからは1年で230億円ものお金がかかるなんてすごい金食い虫なんだね。

お金もかかるけど事故が起きると回りに住んでいる人たちも大変だよ。放射能は色もない臭いもない、それが漏れたらと思うと恐ろしくなるよね。

柏崎刈羽原子力発電所も大なり小なり事故はいっぱい起きていて聞いているし、中越沖地震で全部止まっちゃって3年近く経つけどやっと少しずつ動きだしているけど…。ところで原発の寿命って何年くらいあるの?もう出来てから30年近くになるのかしら。私たちが年をとるとあちらこちらと痛んでくるし、原発も老朽化すると傷んでくると思うよ。

電力会社の皆さん、私は原発は怖いもののイメージがものすごくあります。原発事故だけは絶対起こさないでください。原発は安全だと言うのでしたら、東京の真ん中で原発を作ってみたらいかがでしょうか。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。
宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。



原子力災害時の訓練は必須
柏崎市 森山 英夫さん

柏崎刈羽原子力発電は1985年9月に営業運転を開始してから25年を迎えようとしています。その間に中越地震、中越沖地震と二度の大地震に遭遇しましたが幸いにして重大な事故は発生しませんでした。だからといって原子力発電は未来永劫絶対に安全とは言えないと思います。

人的ミスに起因するトラブルを無くすることは不可能であり、事故の危険性は否定できません。緊急時(万一事故が起こった場合)の対応は万全でしょうか。

柏崎市防災ハンドブック(平成20年4月作成)には原子力災害編の中で皆さんのとるべき行動について記載されていますが集合場所、避難場所が混乱していて非常に難解です。パニック状態で迅速に対応出来るでしょうか。集合・避難の指示や交通網は確保されるのでしょうか。実際に避難指示が発令された場合、徒歩で指定の集合場所に行くことは無理(乳幼児、お年寄り、距離等の問題)が有ります。又、集合・避難場所を対象地域全員の収容は可能か検証されているのでしょうか。それらを勘案するに緊急時の訓練を早期に実施し、問題点を洗い出し、更により良い対応マニュアルの作成は必須だと思います。

原子力災害は特殊な災害です。東京電力、県、市・村が一体となった総合訓練を定期的な実施される事を強く要望致します。

委員就任のお知らせ
滝沢茂義氏が故渡辺丈夫委員の後任として4月7日付けで委員に就任しました。

今後の「地域の会」定例会の開催案内

第85回定例会
日時:平成22年7月7日(水)午後7:00~
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

第86回定例会
日時:平成22年8月4日(水)午後7:00~
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。

また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

編集後記

今年の春は例年になく遅い雪も降り寒い気候が続きましたが、5月の連休では温かい陽気にいつもの風景、「田植え」が始まりました。「いつも通りの風景」と言う言葉は地震を経験して、初めて「ありがたい事」だと感じたのは、私だけでしょうか?

柏崎刈羽原子力発電所も「いつも通りの風景」に近づいています。中越地震、中越沖地震を経験し、安全・安心の多くの議論が行われて、不安を持った人にも市民目線の説明会が開催されました。地域の会での議論も、専門的な地質地盤や機械設備の議論から信頼や安心の議論に進む時が来ていると感じます。この会が設立された本来の趣旨である、透明性を求め、情報の公開、広報のわかりやすさ、信頼の構築が今後の課題と考えています。

委員同士でも、正反対の意見が出てきますが、感じ方、考え方はそれぞれ違うのですから、当然と言えば当然です。物事を否定的に捉えず、人の意見に耳を傾け更なる安心を求めて行きたいと感じています。

(運営委員 久我)